

核不拡散・核セキュリティ総合支援センターの人材育成活動

日本原子力研究開発機構 直井洋介

「核不拡散・核セキュリティ総合支援センター（ISCN）」は、アジア地域を中心とした核不拡散・核セキュリティ強化への貢献を目的として平成 23 年度より本格的に活動を開始した。トレーニングやワークショップ、セミナー等の機会を提供し、国内外の核セキュリティ強化を目指す ISCN の人材育成活動について報告する。

1. 核セキュリティコース（16回：525名（H23・H24年度）※）

米国エネルギー省（DOE/NNSA）およびサンディア国立研究所（SNL）の支援のもと、核物質及び原子力施設における物理的防護に係るトレーニング（RTC）を実施している。これまでにアジア諸国を対象とした RTC を 2 回、国内事業者向けのコースを 1 回実施した。RTC では、仮想の原子力施設をバーチャル空間に構築し、大型スクリーンに 3D 映像として投影するバーチャル・リアリティ・システムおよびセンサーや監視カメラ等の実機を設置した核物質防護実習フィールドを平成 24 年度からトレーニングに組み込んでおり、より現実的かつ体験重視のわかりやすいコースを提供している。また RTC には被爆地訪問を取り入れ、参加者から高く評価されている。

また、世界核セキュリティ協会（WINS）と協力し、国内の原子力事業者、警備当局、規制当局を対象とした核セキュリティに関するワークショップを東京にて 2 回開催した。核セキュリティ事象の一場面を演劇で実演し、それを基に参加者が議論を行う「演劇型セッション」を導入し、参加者から高い評価を得ている。

その他にも、核鑑識、核物質防護に係る IAEA 勧告、および核セキュリティ文化に関するワークショップを IAEA と共催している。

2. 保障措置・国内計量管理（SG/SSAC）コース（7回：111名）

当機構は、SG/SSAC 分野でのトレーニングコースを平成 8 年から毎年実施しており、ISCN でも SG/SSAC コースを 2 回開催している。また、ベトナムの保障措置実務者を招いた SSAC トレーニングや、IAEA の査察官向けのトレーニングも実施している。

3. 核不拡散に関わる国際枠組みコース（6回：189名）

本コースでは、原子力の平和利用推進における 3S（核不拡散、保障措置、核セキュリティ）の重要性に関するセミナーを対象国にて開催している。国際的な動向・枠組みを紹介し、両国の原子力平和利用に関する国内体制や課題について情報を共有することで、ISCN と対象国の協力の方向を探るための貴重な機会となっている。これまでにカザフスタン、モンゴル、マレーシア、ベトナム、ヨルダンにてセミナーを開催している。

4. その他人材育成事業

若手人材育成のために大学との連携を始めている。東京工業大学とは連携具体化に向けた協議を開始し、東京大学には核セキュリティに関する短期間のコースを提供した。

※ 回数・参加者数はすべて H23・H24 年度の合計。ただし、24 年度は 12 月末までの数値。